

栄養教諭に関する科目（令和3年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	摘要
栄養に係る教育及び教職に関する科目		学校栄養教育論	2	15	3	前期	井間真理子	
		学校栄養実践論	2	15	3	後期	井間真理子	
	70110	教職論	2	15	1	前期	安部 貴洋	短大と合同授業  集中 集中 集中  集中  集中  3年後期～4年前期
	70120	教育原理	2	15	1	後期	安部 貴洋	
		教育心理学	2	15	2	後期	沼山 博	
		特別支援教育論	1	8	2	後期	石崎 毅	
		教育制度論	2	15	2	前期	下村 一彦	
		教育課程・方法論	2	15	2	前期	朝倉 充彦	
		道徳教育・特別活動・総合的な学習の時間指導論	2	15	3	前期	沼山 博 安倍 啓司 足立 佳菜	
		生徒指導論	2	15	3	後期	沼山 博	
		教育相談論	2	15	3	後期	棚村 正	
		栄養教育実習	2		4	前期	沼山・安部・井間	
		栄養教育実習事前事後指導	1		3～4	摘要参照	沼山・安部・井間	
		教職実践演習（栄養教諭）	2	15	4	後期	沼山・安部・井間	

※ 2年次以降の担当者は令和3年度のものであり、変更になる場合がある。

栄養教諭に関する科目（令和2年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	摘要
栄養に係る教育及び教職に関する科目		学校栄養教育論	2	15	3	前期	井間真理子	
		学校栄養実践論	2	15	3	後期	井間真理子	
		教職論	2	15	1	前期	安部 貴洋	短大と合同授業  集中 集中 集中  集中  集中  3年後期～4年前期
		教育原理	2	15	1	後期	安部 貴洋	
	70130	教育心理学	2	15	2	後期	沼山 博	
	70131	特別支援教育論	1	8	2	後期	石崎 毅	
	70140	教育制度論	2	15	2	前期	下村 一彦	
	70150	教育課程・方法論	2	15	2	前期	朝倉 充彦	
		道徳教育・特別活動・総合的な学習の時間指導論	2	15	3	前期	沼山 博 安倍 啓司 足立 佳菜	
		生徒指導論	2	15	3	後期	沼山 博	
		教育相談論	2	15	3	後期	棚村 正	
		栄養教育実習	2		4	前期	沼山・安部・井間	
		栄養教育実習事前事後指導	1		3～4	摘要参照	沼山・安部・井間	
		教職実践演習（栄養教諭）	2	15	4	後期	沼山・安部・井間	

※ 3年次以降の担当者は令和3年度のものであり、変更になる場合がある。

栄養教諭に関する科目（平成31年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	摘要
栄養に係る教育及び教職に関する科目	70010	学校栄養教育論	2	15	3	前期	井間真理子	
	70020	学校栄養実践論	2	15	3	後期	井間真理子	
	70165	教職論	2	15	1	前期	安部 貴洋	短大と合同授業 集中 集中 集中 集中 短大と合同授業 集中 3年後期～4年前期
		教育原理	2	15	1	後期	安部 貴洋	
		教育心理学	2	15	2	前期	沼山 博	
		特別支援教育論	1	8	2	後期	清水 浩	
		教育制度論	2	15	2	前期	下村 一彦	
		教育課程・方法論	2	15	2	前期	朝倉 充彦	
		道徳教育・特別活動・総合的な学習の時間指導論	2	15	3	前期	沼山 博 安倍 啓司 足立 佳菜	
	70170	生徒指導論	2	15	3	後期	沼山 博	
	70180	教育相談論	2	15	3	後期	棚村 正	
	栄養教育実習	2		4	前期	沼山・安部・井間		
70200	栄養教育実習事前事後指導	1		3～4	摘要参照	沼山・安部・井間		
	教職実践演習（栄養教諭）	2	15	4	後期	沼山・安部・井間		

※ 4年次の担当者は令和3年度のものであり、変更になる場合がある。

栄養教諭に関する科目（平成30年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	摘要
栄養に係る科目に関する		学校栄養教育論	2	15	3	前期	井間真理子	
		学校栄養実践論	2	15	3	後期	井間真理子	
教職に関する科目	70165	教職論	2	15	1	前期	伊勢 孝之	集中 集中 短大と合同授業 集中 3年後期～4年前期
		教育原理	2	15	1	後期	安部 貴洋	
		教育心理学	2	15	2	前期	沼山 博	
		教育制度論	2	15	2	前期	下村 一彦	
		教育課程・方法論	2	15	2	前期	朝倉 充彦	
		道徳教育・特別活動論	2	15	3	前期	安倍 啓司 足立 佳菜	
		生徒指導論	2	15	3	後期	沼山 博	
	教育相談論	2	15	3	後期	棚村 正		
	70190	栄養教育実習	2		4	前期	沼山・安部・井間	
	70200	栄養教育実習事前事後指導	1		3～4	摘要参照	沼山・安部・井間	
70210	教職実践演習（栄養教諭）	2	15	4	後期	沼山・安部・井間		

講義科目名称：学校栄養教育論（70010）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
井間 眞理子			
栄養に係る教育に関する科目			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	学校組織における栄養教諭が持つ役割や児童生徒の様々な現状と課題を理解するとともに、学校給食の教育的意義を学修する。到達目標は、栄養教諭としての使命感を持ち、教育的な資質と栄養に関する専門性を身につけることである。		
授業計画	第1回	栄養教諭制度の創設の意義と栄養教諭の役割	
	第2回	学校組織の理解と栄養教諭の位置づけ	
	第3回	食に関する指導・管理に関わる法規、諸制度	
	第4回	学校給食の歴史と食文化の変遷	
	第5回	学校給食の現状と課題	
	第6回	学校給食実施基準の理解	
	第7回	学校給食における衛生管理	
	第8回	学校給食衛生管理基準の理解	
	第9回	学校給食におけるアレルギー対応	
	第10回	個別栄養指導（肥満と痩身）の基本	
	第11回	保護者や地域住民の食生活の現状と課題	
	第12回	児童生徒の食生活の現状と課題	
	第13回	児童生徒の健康状態の現状と課題	
	第14回	世界の給食事情	
	第15回	まとめ	
成績評価・方法	試験70%、レポート20%、発表10%		
授業概要	栄養教諭制度創設の経緯と背景のほか、具体的な職務内容、学校給食の歴史や現状、児童生徒の健康・栄養に関わる現状と課題等を理解できるよう講義を進める。		
実務経験及び授業の内容	小中学校及び教育事務所で栄養教諭としての実務経験があり、この経験を活かして実体験の話しを交えながら、現実を受け止め対応できる栄養教諭の育成を目指した講義を行う。		
時間外学習	講義を踏まえて、教科書と配布プリントを読み直し理解する。		
教科書	金田雅代編著 4訂 栄養教諭論－理論と実際－（建帛社、3,080円）		
参考文献	文部科学省による資料等を適宜印刷し、配布する。		
履修条件	教職に関する科目を履修していること。		
備考			

講義科目名称：学校栄養実践論（70020）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
井間 眞理子			
栄養に係る教育に関する科目			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	児童生徒の生涯にわたる健康づくりをめざし、新学習指導要領と食に関する指導の目的を理解するとともに、食に関する指導に役立つ学習指導案と学校給食献立の作成方法を学修する。到達目標は、栄養教諭に必要とされる食に関する指導を推進する能力と実践力を身につけることである。
授業計画	<p>第1回 新学習指導要領の理解</p> <p>第2回 食に関する指導の全体計画</p> <p>第3回 食に関する指導の学習指導案作成の基本</p> <p>第4回 小学校学習指導案の作成①</p> <p>第5回 小学校学習指導案の作成②</p> <p>第6回 小学校学習指導案の完成</p> <p>第7回 中学校学習指導案の作成①</p> <p>第8回 中学校学習指導案の作成②</p> <p>第9回 中学校学習指導案の完成</p> <p>第10回 食に関する指導の模擬実践と意見交換①</p> <p>第11回 食に関する指導の模擬実践と意見交換②</p> <p>第12回 食に関する指導の模擬実践と意見交換③</p> <p>第13回 食に関する指導に関連した学校給食献立の作成①</p> <p>第14回 食に関する指導に関連した学校給食献立の作成②</p> <p>第15回 まとめ</p>
成績評価・方法	作成物及び発表90%、授業への参加度10%
授業概要	児童生徒の生涯にわたる健康づくりをめざし、学習指導要領における各教科の内容と食に関する指導の接点を理解した上で、食に関する指導で活用できる学習指導案と学校給食献立を作成する。
実務経験及び授業の内容	小学校及び教育事務所で栄養教諭としての実務経験があり、この経験を活かして実体験の話しを交えながら、現実に受け止め対応できる栄養教諭の育成を目指した講義を行う。
時間外学習	学習指導案作成に役立つ資料の収集や、模擬授業の練習を自主的に進めておくこと。
教科書	金田雅代編著 4訂 栄養教諭論－理論と実際－（建帛社、3,080円）
参考文献	文部科学省『食に関する指導の手引』 文部科学省『栄養教諭による食に関する指導実践事例集』 （いずれも、書籍以外に文部科学省ホームページから入手可能）
履修条件	「学校栄養教育論」を履修していること。
備考	

講義科目名称：教職論（70110）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
安部 貴洋			
教職に関する科目			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：現代社会における教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等を理解するとともに、教職への意欲を高め、教師としての適性を判断できるようにする。</p> <p>到達目標：</p> <p>(1) 現代社会における教職の意義を説明できる。  (2) 教職観の歴史の変遷と求められている教職像を説明できる。  (3) 教員の基礎的な資質と職務・義務を説明できる。  (4) 教員研修の意義と制度上の位置づけ、生涯学びつづけることの必要性を説明できる。  (5) 学校の内外の専門家との連携の必要性を説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 授業概要と授業計画の説明 教職論を学ぶことの意味</p> <p>第2回 現代社会における教師の役割</p> <p>第3回 教師論 近代教育思想史における教師</p> <p>第4回 歴史のなかの教師（1）明治・大正・昭和（戦前）</p> <p>第5回 歴史のなかの教師（2）戦後</p> <p>第6回 教師の職務（1）授業の構成と評価</p> <p>第7回 教師の職務（2）カリキュラムのデザイン</p> <p>第8回 教師の職務（3）教員組織とチーム学校</p> <p>第9回 教師の養成と研修制度</p> <p>第10回 教師と教育法規 日本国憲法・教育基本法・学校教育法など</p> <p>第11回 教員の義務と身分保障</p> <p>第12回 教師の専門性 反省的实践家とカウンセリングマインド</p> <p>第13回 教師と学校経営</p> <p>第14回 教育改革と教師 転換期の学校と教師の使命</p> <p>第15回 理解度の確認と総括</p>
成績評価・方法	小テスト 40%、レポート 40%、発表 20%
授業概要	<p>授業は、現代社会における教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等に関する二部から構成されている。第2回から第5回までは、近代教育思想史における教師像、戦前から現在までの教師観の変遷を概観すること等をおして、現代社会における教職の意義を考察する。第6回以降は、教師の具体的な職務をおして教師の基礎的な資質と職務・義務、教員研修の意義、学校内外の専門家との連携の必要性を理解し、説明できるようにする。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業内容を復習するとともに、日常生活のなかで問い直すこと。
教科書	使用しない。適宜、授業資料を配布する。
参考文献	<p>秋田喜代美・佐藤学[編著]『新しい時代の教職入門 改訂版』（有斐閣、2016年）</p> <p>高見茂・田中耕治・矢野智司[編著]『教職教養講座第1巻 教職教育論』（協同出版、2017年）</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領』</p>
履修条件	
備考	

講義科目名称：教育原理（70120）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
安部 貴洋			
教職に関する科目			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：教育の理念、教育の歴史や思想、教育行政や制度など教育全般について学び、現代における教職の使命を理解する。</p> <p>到達目標：(1)教育の意義と目的が説明できる。                  (2)近代教育の思想と歴史が説明できる。                  (3)日本と諸外国の教育制度と実践が説明できる。                  (4)教育の現状と課題を説明できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 授業概要の説明と授業計画 教育原理を学ぶ理由</p> <p>第2回 教育の意義と目的 教育の本質と人間存在</p> <p>第3回 教育と児童福祉 子どもの人権にかかわる法律と制度</p> <p>第4回 子どもの社会化と教育の役割 人格形成の基盤としての学校・家庭・地域社会</p> <p>第5回 諸外国の近代教育の思想と歴史 (1) コメニウス、ロック、ルソー、ペスタロッチなど</p> <p>第6回 諸外国の近代教育の思想と歴史 (2) フレーベル、ヘルバルト、デューイ、モンテッソーリなど</p> <p>第7回 日本の近代教育の思想と歴史 明治公教育と教育勅語、大正新教育、戦時下の学校と教育</p> <p>第8回 子ども像と教育観の変遷 〈子ども〉期の発見と「教育」の誕生、子どもの世紀と新教育など</p> <p>第9回 教育の制度 学校制度の成立と展開、教育の機会均等原則、学校体系、教育制度改革の動向</p> <p>第10回 教育課程の編成と教育評価 顕在的カリキュラムと隠れたカリキュラム</p> <p>第11回 日本と諸外国の実践</p> <p>第12回 現代社会の諸問題と教育課題 (1) 教育の病理現象 (いじめ、自殺、体罰、不登校など)</p> <p>第13回 現代社会の諸問題と教育課題 (2) 教師と学校の役割(生きる力、確かな学力、開かれた学校づくり、説明責任など)</p> <p>第14回 現代社会における教育の理念と教師の役割</p> <p>第15回 理解度の確認と総括</p>
成績評価・方法	試験 40%、レポート 40%、発表 20%
授業概要	<p>授業は、教育の意義と目的、近代教育思想と歴史、現代日本における教育制度や教育課程、教育問題等の三部から構成されている。第2回から第4回までは「教育とは何か」という問いを中心に、教育に関する基本的事項を問い直すとともに、基本的な考えを理解する。第5回から第8回までは、近代教育思想とその歴史をとおして教育観、子ども観の変遷を理解するとともに、説明できるようにする。第9回から第14回までは、現代教育における教育制度や教育課程等を理解し、教育問題に関する様々な考えを理解するとともに自分の考えを発表できるようにする。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業内容を復習するとともに、日常生活のなかで問い直すこと。
教科書	使用しません。適宜、授業資料を配布します。
参考文献	<p>木村元・汐見稔幸 [編著] 『アクティベート教育学1 教育原理』 (ミネルヴァ書房、2020年)</p> <p>今井康雄 [編] 『教育思想史』 (有斐閣、2009年)</p> <p>鈴木晶子・山名淳・駒込武 [編著] 『教職教養講座第2巻 教育思想・教育史』 (協同出版、2018年)</p> <p>高見茂・杉本均・南部広考 [編著] 『教職教養講座第13巻 教育制度』 (共同出版、2018年)</p> <p>教育思想史学会 [編] 『教育思想事典 増補改訂版』 (勁草書房、2017年)</p>
履修条件	教職論を履修しておくこと。

講義科目名称：教育心理学（70130）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
沼山 博			
教職に関する科目			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程</p> <p>到達目標：1) 児童及び生徒の心身の発達をもたらす外的、内的要因の相互作用について、発達に関する代表的な理論を踏まえながら説明できる。また、発達の概念や、教育における発達理解の意義を説明できる。2) 乳幼児期から青年期に至る各時期の発達の特徴について、身体、運動、認知、社会性などの各側面から説明できる。3) さまざまな学習の形態や過程について、代表的な学習理論を踏まえながら説明できる。4) 主体的学習を支える動機づけや集団作り、学習評価のあり方について、発達段階と関連づけて説明できる。5) 主体的な学習活動を支える指導のあり方を教育心理学の視座から考察することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 第1回：オリエンテーション：教育心理学とは</p> <p>第2回 発達を支える諸要因①—遺伝と環境—</p> <p>第3回 発達を支える諸要因②—発達と教育—</p> <p>第4回 発達を支える諸要因③—発達と文化—</p> <p>第5回 発達の概念と理論</p> <p>第6回 発達の様相①—幼児期—</p> <p>第7回 発達の様相②—児童期—</p> <p>第8回 発達の様相③—青年期—</p> <p>第9回 学習の諸問題①—人間の認知と学習—</p> <p>第10回 学習の諸問題②—ルール学習と有意義受容学習—</p> <p>第11回 学習の諸問題③—動機づけと学習—</p> <p>第12回 学習の諸問題④—グループ学習と学び合い—</p> <p>第13回 学習の諸問題⑤—教育評価—</p> <p>第14回 主体的な学びを支援するための授業づくり</p> <p>第15回 まとめ</p>
成績評価・方法	<p>期末レポート（予定）60%、講義への取り組み（コメントペーパー含む）40%</p>
授業概要	<p>次の①～⑥について概説する。①児童及び生徒の心身の発達をもたらす要因について、代表的な発達理論を含めながら解説する。②乳幼児～青年期の各時期の発達の特徴について概観する。③学習支援のための基礎知識として、さまざまな学習の形態や過程について、学習理論を含めながら解説する。④主体的な学習を支える動機づけや集団作り、学習評価のあり方について解説する。⑤①～④を踏まえながら、主体的な学習活動を支える指導の在り方を考察する。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>講義で配布した資料を用いて、予習・復習をすること。</p>
教科書	<p>使用しない。講義で適宜資料配布する。</p>
参考文献	<p>文部科学省「生徒指導提要」ほか、講義内で紹介する。</p>
履修条件	<p>教育原理、心理学を履修しておくこと。</p>
備考	

講義科目名称：特別支援教育論（70131）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
石崎 毅			
教職に関する科目			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ 特別支援教育への理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <p>(1) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性や心身の発達を理解するとともに、その教育課程や支援の方法を理解する。</p> <p>(2) 障害はないが、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 「特別支援教育論を学ぶ上で大切な姿勢」と「支援を必要とする様々な障害」オリエンテーション</p> <p>第2回 通常学級に在籍する特別の支援が必要な児童生徒の困り感への支援の基礎①（ADHD：注意欠如多動性障害）</p> <p>第3回 通常学級に在籍する特別の支援が必要な児童生徒の困り感への支援の基礎②（LD：学習障害）</p> <p>第4回 通常学級に在籍する特別の支援が必要な児童生徒の困り感への支援の基礎③（ASD：自閉症スペクトラム）</p> <p>第5回 障害ではないが特別の支援が必要な児童生徒の困り感への支援の基礎（日本語指導、LGBT、マルトリートメント、等）</p> <p>第6回 学校におけるチーム支援と外部機関との連携及び個別支援計画</p> <p>第7回 通級による指導と自立活動</p> <p>第8回 特別支援教育の制度とインクルーシブ教育の今後</p>
成績評価・方法	定期試験（知識理解・思考）40% 授業・ワークシート（関心意欲態度・思考）60%
授業概要	特別支援教育のあり方や制度及び、通常学級に在籍する特別の支援を必要とする児童生徒の障害について学ぶとともに、すべての児童生徒たちが達成感を持ちながら生きる力を身につけていくための具体的な支援方法を考えることを通して、特別支援教育についての理解を深めていきます。
実務経験及び授業の内容	中学校及び小中一貫校や在外教育施設で特別支援教育コーディネータや学校心理士として勤務した実務経験を生かして事例研究などを盛り込み、実践力を育む講義を行います。
時間外学習	必要に応じて予習を課します。意見が述べられるように準備してください。
教科書	必要に応じて資料を配布します。
参考文献	「特別支援学校学習指導要領解説」（文部科学省） 「DSM-4」「DSM-5」（アメリカ精神医学会著 日本精神神経学会訳）
履修条件	
備考	



講義科目名称：教育制度論（70140）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
下村 一彦			
教職に関する科目			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	(1)現代公教育制度、(2)学校と地域との連携や協働、(3)学校安全をテーマとする。 (1)では、公教育制度の法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、内在する課題を理解すること、 (2)では、地域の状況や協働の事例を踏まえながら、連携の意義や留意点を理解すること、(3)では、事故等の状況を踏まえながら、学校保健安全法に基づく学校安全の目的と具体的な取組を理解することを目標とする。
授業計画	<p>第1回 公教育制度（1）公教育の三原則（義務制・無償制・中立性）の理念</p> <p>第2回 公教育制度（2）多文化社会における公教育の三原則</p> <p>第3回 諸外国の教育制度や改革の動向</p> <p>第4回 我が国における公教育制度成立と戦前の問題点</p> <p>第5回 我が国の教育関係法規（日本国憲法、教育基本法、学校教育法）</p> <p>第6回 我が国の教育行政と仕組み（1）開放制教員免許と更新制度</p> <p>第7回 我が国の教育行政と仕組み（2）教育委員会制度と総合教育会議</p> <p>第8回 我が国の教育行政と仕組み（3）教科書検定と採択</p> <p>第9回 我が国の教育行政と仕組み（4）生涯学習</p> <p>第10回 学校と地域との連携について（1）開かれた学校づくりの理念と情報発信</p> <p>第11回 学校と地域との連携について（2）世代間交流の観点からみる連携による教育活動の意義</p> <p>第12回 学校と地域との連携について（3）地域との協働による教育環境整備</p> <p>第13回 学校安全への対応について（1）学校保健安全法に基づく安全管理</p> <p>第14回 学校安全への対応について（2）事件や事故の実例と対応</p> <p>第15回 学校安全への対応について（3）リスクとハザードを踏まえた安全教育</p>
成績評価・方法	レポート100%
授業概要	公教育制度に関しては、今日の法制度が整備された背景を含め、制度の原理や概要を理解することで、今日的課題への視野を培う。地域との連携と安全教育に関しては、関連法規と理念を理解した上で、事例を通して実践への土台を築く。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業後にノートと照らし合わせてテキストを再度確認し、他者に説明できるようにまとめておく(2時間15回)新聞等の報道を通して今日の教育問題や改革の動向への理解を深める(毎週合計2時間 15週)
教科書	牛渡淳編著『改訂増補版 初めて学ぶ 教育の制度・行政・経営論』金港堂、2017年。
参考文献	
履修条件	
備考	シラバス内容に変更が生じる場合は、その都度説明します。

講義科目名称：教育課程・方法論（70150）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期（集中）	2	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
朝倉 充彦			
教職に関する科目			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>&lt;授業のテーマ&gt; 教育課程・教育方法の理論と実践</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校教育における教育課程の役割・目的や、学習指導要領の性格および変遷について説明できる。</li> <li>2. 教育課程編成の基本原則とその方法について説明できる。</li> <li>3. カリキュラム・マネジメントの意義や重要性について説明できる。</li> <li>4. 教育方法や学習指導の基礎理論について説明できる。</li> <li>5. 最新学習指導要領における教育課程や教育方法についての考え方を説明できる。</li> <li>6. 授業づくりにおける教室環境や教育技術、情報機器の役割について説明できる。</li> <li>7. 教育評価の基礎理論について説明できる。</li> <li>8. 1～7を踏まえ、学習指導案を作成することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、教育課程・教育方法とは何か</p> <p>第2回 カリキュラムの種類と歴史</p> <p>第3回 教育課程編成の基本原則</p> <p>第4回 学習指導要領（1）：学習指導要領の変遷</p> <p>第5回 学習指導要領（2）：最新学習指導要領の特徴</p> <p>第6回 カリキュラム・マネジメントの意義</p> <p>第7回 教育課程編成の方法</p> <p>第8回 教育方法の基礎理論（1）：教育方法・学習指導の対象と原理</p> <p>第9回 教育方法の基礎理論（2）：教育方法・学習指導の歴史</p> <p>第10回 教育方法の基礎理論（3）：授業づくりと教育技術</p> <p>第11回 教育方法の基礎理論（4）：学級と個別化</p> <p>第12回 情報機器及び教材を活用した授業づくり</p> <p>第13回 教育評価の基礎理論</p> <p>第14回 学習指導案の作成（1）：指導案の作成</p> <p>第15回 学習指導案の作成（2）：指導案の発表とグループディスカッション</p>
成績評価・方法	授業内小レポート40%。発表やディスカッション等での積極的な意見発表状況30%。最終課題レポート30%。
授業概要	前半は教育課程について概説する。まず学校教育における教育課程の役割・目的、学習指導要領の性格・位置づけを取りあげ、次に教育課程編成の基本原則やその方法、カリキュラム・マネジメントの意義や重要性について説明する。後半は、教育方法について概説する。まず教育方法や学習指導、教育評価の基礎理論を取りあげ、それらの歴史を踏まえながら、最新学習指導要領における考え方も考察する。次に、授業づくりをする上での、教室環境や教育技術、情報機器・教材の役割について解説する。以上を踏まえ、受講生に学習指導案を作成してもらい、さらにグループディスカッションを行って、指導案のブラッシュアップを図る。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	専門用語等の分からない言葉を辞書や関連図書を使用して事前に調べておくこと。授業中にわからなかった語句の意味を調べる。学習時間は、1時間程度とする。
教科書	最新版「小学校学習指導要領」、その他資料を適宜配布する。
参考文献	講義内で適宜紹介する。

講義科目名称： 道徳教育. 特別活動. 総合的な学習の時間指導論 授業コード：

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期（集中）	3	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
沼山 博・安倍 啓司・足立 佳菜			
教職に関する科目			授業形態・講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>&lt;授業のテーマ及び到達目標&gt; この時間は、道徳教育、特別活動及び総合的な学習の時間の意義や目標、特質など、指導に必要な知識や素養を身に付ける。到達目標は次の9つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教育課程における道徳教育の位置づけや意義・役割を説明できる。</li> <li>2) 道徳教育の目標、内容等の概要について説明できる。</li> <li>3) 「特別の教科 道徳」における児童観、教材観、指導観を説明できる。</li> <li>4) 特別活動の意義や役割、目標及び内容を理解する。</li> <li>5) 集団活動の意義を理解し、指導のあり方を理解する。</li> <li>6) 生徒会活動、学校行事、クラブ活動、及び学級活動の内容と指導のあり方を理解する。</li> <li>7) 総合的な学習の時間の意義や役割、目標及び内容を理解する。</li> <li>8) 総合的な学習の時間の指導計画の考え方や重要性を理解する。</li> <li>9) 食に関する指導の指導案を作成し、模擬授業を行い、実践上の留意点を理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 総合的な学習の時間の意義と役割（沼山）</p> <p>第2回 総合的な学習の時間の目標と内容（沼山）</p> <p>第3回 総合的な学習の時間の指導計画（沼山）</p> <p>第4回 特別活動の目標と内容、他領域との関連性（安倍）</p> <p>第5回 学級活動の特質や活動内容（安倍）</p> <p>第6回 人間関係づくりと話し合い活動の指導（安倍）</p> <p>第7回 児童会・生徒会、クラブ活動、学校行事の特質や活動内容（安倍）</p> <p>第8回 特別活動の指導計画とその留意事項、展開例（安倍）</p> <p>第9回 学級活動における食に関する指導の指導案の作成と検討（安倍）</p> <p>第10回 作成した指導案を用いた食に関する指導の模擬授業（安倍）</p> <p>第11回 道徳教育の歴史（足立） 戦前・戦後、「道徳の時間」、「特別の教科 道徳」</p> <p>第12回 道徳とは（足立） 知ることと行うこと、価値と事実、道徳における主体的学び</p> <p>第13回 道徳の内容・道徳に関する現代的課題（足立）</p> <p>第14回 学校における道徳教育（足立） 公教育の役割、地域・家庭との連携</p> <p>第15回 道徳を教える・学ぶ（足立） 学校全体での道徳教育、道徳性の発達、教材・教師の役割</p>
成績評価・方法	テスト・課題・授業内レポート50%、授業への取り組み50%
授業概要	次の点について、講義に適宜グループワークを組み合わせることで能動的に学ぶことができるようにする。①道徳教育の歴史と今日的課題、②道徳の本質、③道徳教育の意義や役割、目標及び内容、④道徳性の発達、⑤道徳教育における児童観、教材観、指導観、⑥特別活動の意義や役割、目標及び内容、⑦集団活動の意義と指導、⑧学級活動、生徒会活動、クラブ活動、及び学校行事の内容と指導、⑨学校と家庭・地域との連携、⑩総合的な学習の時間の意義や役割、目標及び内容、⑪総合的な学習の時間の指導計画、⑫「食に関する指導」の指導案作成および模擬授業
実務経験及び授業の内容	特別活動の担当者は、公立小学校での指導経験があり、この経験を生かし授業を行う。
時間外学習	授業中にわからなかった語句を調べたり、授業の要約をして学習内容を整理すること。教材研究の準備を行うこと。ニュースや新聞をチェックし、関心のあるトピックを記録すること。
教科書	小・中学校学習指導要領解説 道徳編 文部科学省 小・中学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 小・中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 文部科学省

	食に関する指導の手引－第1次改訂版－ 文部科学省
参考文献	適宜講義で紹介する。
履修条件	
備考	集中講義のため、日程等に注意すること。

講義科目名称：生徒指導論（70170）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
沼山 博			
教職に関する科目			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：生徒指導の理論及び方法</p> <p>到達目標：</p> <p>1) 生徒指導の意義や課題、方法原理について説明できる。</p> <p>2) 学校運営における生徒指導体制の構築、および指導方針・年間指導計画に基づいた組織的な取り組みについて説明できる。</p> <p>3) 各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性を説明できる。</p> <p>4) 児童・生徒全体を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を説明できる。</p> <p>5) 個々の児童・生徒の問題行動の定義と対応について、教職員・専門家・関係機関など学校内外における連携も含めて説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 生徒指導の意義や原理① 生徒指導の意義と課題</p> <p>第3回 生徒指導の意義や原理② 教育課程における生徒指導の位置づけ</p> <p>第4回 生徒指導の意義や原理③ 生徒指導の前提となる発達観や指導観</p> <p>第5回 生徒指導の意義や原理④ 集団指導と個別指導の方法原理</p> <p>第6回 学校運営と生徒指導体制① 組織的取組と教員間連携</p> <p>第7回 学校運営と生徒指導体制② 指導方針と生徒指導計画</p> <p>第8回 教育課程と生徒指導① 教科における生徒指導</p> <p>第9回 教育課程と生徒指導② 道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動における生徒指導</p> <p>第10回 児童生徒全体への指導</p> <p>第11回 個々の課題を抱える児童生徒の指導① 問題行動の定義と理解</p> <p>第12回 個々の課題を抱える児童生徒への指導② 問題行動への対応、指導の前提となる法規</p> <p>第13回 個々の課題を抱える児童生徒への指導③ 今日的課題と地域との連携</p> <p>第14回 生徒指導と生徒理解</p> <p>第15回 まとめ</p>
成績評価・方法	期末試験60%、講義への取り組み40%
授業概要	次の①～⑤について概説する。①教育課程における生徒指導の意義や課題、教職課程上の位置づけ、および生徒指導の前提となる発達観や指導観、②学校運営における生徒指導体制の構築、および指導方針・年間指導計画に基づいた組織的な取り組み、③各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性、④児童・生徒全体を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方、⑤個々の児童・生徒の問題行動の定義と対応や教職員・専門家・関係機関など学校内外における連携、⑥生徒指導の前提となる法規、⑦個別指導の前提となる生徒理解。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布した資料を用いて、予習・復習をすること。
教科書	文部科学省「生徒指導提要」
参考文献	宮前理編著「カウンセリングを教育にいかす」（八千代出版）
履修条件	2年前期までの教職科目すべてを履修しておくこと。
備考	教材等の都合により、授業計画が変更される場合があります。

講義科目名称：教育相談論（70180）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
棚村 正			
教職に関する科目			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1) 学校における教育相談の意義と課題を理解している。 2) 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解している。 3) 教育相談を進める際に必要な心理学やカウンセリングに関する基礎的な理論や概念を理解している。 4) 不適応行動等に対する、発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。
授業計画	<p>第1回 学校における教育相談①－意義や課題－</p> <p>第2回 学校における教育相談②－児童生徒の実態－</p> <p>第3回 教育相談の組織と運営</p> <p>第4回 教育相談の進め方①－生徒理解の基本－</p> <p>第5回 教育相談の進め方②－生徒理解の手立て－</p> <p>第6回 教育相談の進め方③－学級担任編－</p> <p>第7回 不適応行動等の理解と対応①－不登校－</p> <p>第8回 不適応行動等の理解と対応②－いじめ－</p> <p>第9回 不適応行動等の理解と対応③－反社会的・非社会的行動－</p> <p>第10回 相談活動とカウンセリング①－基本的な姿勢－</p> <p>第11回 相談活動とカウンセリング②－カウンセリングマインド－</p> <p>第12回 相談活動とカウンセリング③－個別指導－</p> <p>第13回 教育相談の実際①－校内外との連携－</p> <p>第14回 教育相談の実際②－様々な心理支援－</p> <p>第15回 まとめ</p>
成績評価・方法	期末試験60%、課題レポート20%、講義への参加度20%
授業概要	次の点について、講義とグループワークを組み合わせ、より活動的に学ぶことができるようにする。①学校における教育相談の意義と課題、②教育相談の組織と運営、③生徒理解を踏まえた教育相談の進め方、④不適応行動等の理解と対応、⑤相談活動とカウンセリング、⑥組織的な教育相談の実際。
実務経験及び授業の内容	現場で教員として38年勤務した経験を活かして授業を行う。
時間外学習	日頃より読書やテレビ視聴、映画鑑賞、他の講義の受講を通じて、この授業のテーマについて主体的・積極的に考えること。
教科書	文部科学省「生徒指導提要」
参考文献	適宜資料として配布する。
履修条件	
備考	

講義科目名称：栄養教育実習（70190）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期（集中）	4	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
沼山・安部・井間			
教職に関する科目			授業形態：実習
授業のテーマ及び到達目標	テーマ：栄養教諭としての実務を体験する 到達目標： ①学校教育の意義と役割を理解する。 ②栄養教諭の職務と役割、及び学級担任や養護教諭との連携の意義を理解する。 ③児童の心身の発達と生活について理解する。 ④「食に関する指導」の意義と役割を理解する。 ⑤「食に関する指導」の担当者として、指導計画や指導案の作成、教材研究などを行うとともに、給食や学級活動の時間などで授業実践を行うことで、効果的な指導法や子どものかかわりを考察できる。 ⑥学校給食経営管理の実際を経験し、学校給食の意義や留意点を理解する。		
授業計画	第1回 栄養教育実習オリエンテーション  第2～29回 小学校（もしくは中学校）教育の観察・参加・実習 学校給食経営管理と食に関する指導  第30回 まとめと反省会		
成績評価・方法	実習校からの評価を踏まえ、実習日誌や教育実習レポートも参考にしながら評価する。		
授業概要	小・中学校における実習である。3年次までの教職科目等で履修した教育や栄養学に関する知見や技術を踏まえて、教育実践を実地で体験することを通して、教職に関する基礎的指導力の基礎を身につける。また、栄養教諭としての自らに適性を考察し、教員としての資質向上を目指す。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	実習前から指導案作成に向けた教材研究を行うこと。（学生立案献立がある場合もある）		
教科書	「食に関する指導の手引－第2次改訂版－」（文部科学省）		
参考文献			
履修条件	①3年次までに開講されている教職科目のすべてを履修していること。 ②4年次前期に開講されている「栄養教育実習事前事後指導」を同時に履修すること。		
備考	具体的な日程については、実習校の指示に従ってください。 また、新型コロナウイルス感染状況によって、開講時期や授業計画が変更される場合もあります。		

講義科目名称：栄養教育実習事前事後指導（70200）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4	1	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
沼山・安部・井間			
教職に関する科目			授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：教育実習の準備とふりかえり 到達目標</p> <p>①教育実習に必要な具体的事項を理解することを通して、実習へ向けた心構えができる。 ②教育実習に必要な具体的事項を理解し、教材研究や指導案作成、模擬授業等、実習へ向けた具体的な準備をすることができる。 ③教育実習の体験を意義づけ、自らの教員としての適性と資質向上のために必要な課題を考えることができる。 ④①～③について教育実習報告会で発表することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 教育実習オリエンテーション</p> <p>第2回 教育実習の意義・目的・心得</p> <p>第3回 実習校とのかかわり（1） 実習校との連絡と提出物について</p> <p>第4回 実習校とのかかわり（2） 実習校への提出物の作成</p> <p>第5回 実習日誌の書き方</p> <p>第6回 指導案の作成と教材研究（1）</p> <p>第7回 指導案の作成と教材研究（2）</p> <p>第8回 模擬授業</p> <p>第9回 小・中学校における教育について 教育委員会指導主事による講話</p> <p>第10回 小・中学校における生徒指導について 教育委員会指導主事による講話</p> <p>第11回 教育実習のふりかえり（1） レポート作成</p> <p>第12回 教育実習のふりかえり（2） 教育実習報告会のための話し合い</p> <p>第13回 教育実習のふりかえり（3） 教育実習報告会の準備</p> <p>第14回 教育実習のふりかえり（4） 教育実習報告会</p> <p>第15回 教育実習のまとめ 教員としての適性と資質向上のために必要な課題を考える</p>
成績評価・方法	授業への取り組みや提出物、教育実習報告会での発表100%
授業概要	栄養教育実習の事前と事後において、実習の準備と振り返りに関する指導を行う。実習前には教育実習の意義や目的、心得をはじめ、教育現場の教育活動に必要とされる知識や態度について理解を深める。実習後にはレポート作成や報告会準備や報告会発表を通して、実習の振り返りを行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	実習へ向けて必要なことを主体的に見つけ、用意しておくこと。実習の振り返りレポートがあるので、実習終了後、自ら振り返りを行って準備しておくこと。
教科書	「食に関する指導の手引－第2次改訂版－」（文部科学省）
参考文献	講義内で紹介する。
履修条件	①3年次までに開講されている教職科目のすべてを履修していること。 ②4年次前期に開講されている「栄養教育実習」を同時に履修すること。
備考	ゲストスピーカーの都合等により講義順序が変更になる場合がある。また、具体的な日程については指示に従うこと。 上記以外に実習校で出向いて、栄養教諭や担任の先生などとの打ち合わせがあるので、注意すること。



講義科目名称：教職実践演習（栄養教諭）（70210）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
沼山・安部・井間			
教職に関する科目			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：栄養教諭としての実践力と適性を高める</p> <p>到達目標：</p> <p>①これまでの学修や教育実習を振り返り、栄養教諭としての資質や実践力向上のための課題を明らかにできる。</p> <p>②教育実習や模擬授業などを踏まえ、「食に関する指導」を効果的に行うための指導案を作成できる。</p> <p>③学校教育や教職の意義、および教員としての倫理などについて自分なりに説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 教職課程におけるこれまでの学修の振り返り</p> <p>第2回 教育実習の振り返りと課題の考察 栄養教育実習報告会の準備</p> <p>第3回 「食に関する指導」模擬授業のための教材研究</p> <p>第4回 教科の模擬授業を体験する</p> <p>第5回 「食に関する指導」模擬授業①（小学校低学年）</p> <p>第6回 「食に関する指導」模擬授業②（小学校中・高学年）</p> <p>第7回 「食に関する指導」模擬授業③（中学校）</p> <p>第8回 校長経験者による講話—学校現場に求められる教員とは—</p> <p>第9回 現職栄養教諭による講話—栄養教諭として求められる資質とは—</p> <p>第10回 教員経験者による講話—生徒指導・教育相談に関して—</p> <p>第11回 学校見学（1） 小学校、中学校、特別支援学校のいずれか</p> <p>第12回 学校見学（2） 小学校、中学校、特別支援学校のいずれか</p> <p>第13回 教職課程での学びをふりかえる（1）</p> <p>第14回 教職課程の学びをふりかえる（2）</p> <p>第15回 まとめ</p>
成績評価・方法	講義で課す小レポートや振り返り用紙60%、講義への取り組み40%
授業概要	この科目は、栄養教育実習での経験を踏まえ、栄養教諭としての実践力を高めることを目的とする。具体的な内容は次の通り。①教職課程におけるこれまでの学修についての振り返りを行う、②教育実習の振り返りを行い、栄養教諭の職務と役割についての理解を深めるとともに、実践力向上のための課題を考察する、③教育実習を踏まえ、「食に関する指導」の指導計画・指導案を新たに作成し、模擬授業を行うことで、効果的な指導法や子どもとのかかわり方を考察する、④現職教員による講話や学校見学等を通して、学校教育や教職の意義、および教員としての資質や倫理について再確認する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	講話や学校見学等が終了した際に出される課題を行うこと、模擬授業については担当者だけではなく、関係者で協力しあいながら準備を進めること。
教科書	文部科学省「食に関する手引き ー第2次改訂版ー」
参考文献	講義内で紹介する。
履修条件	4年前期「栄養教育実習」を単位取得していること
備考	ゲストスピーカーや見学学校の都合等により、日程が変更になる場合があるので、注意すること。